

合はせ、はつと離れ、ビードロくくくで静は上手で杖を持つて右手に左手の笠をのせ、右足をやゝ前に出し體をひねつて忠信を見かへり、うなづきく美しくきまる。この邊も文五郎さんはどこまでも見物を喜ばせる態度に出てぬけ目が無い。忠信は右足を前に出し右脇に笠をもち左手をひろげて極る。これは舞臺が大きいからで、いつもの少し低い姿で極るのとは違ふやうである。(小さい文樂座の舞臺では静は上、忠信は下の幕切は美しい場面で勿論さうなければならな
いと思ふが)全體として榮三さん文五郎さんは勿論、玉造さんも小兵吉さんも門造さんも政龜さんも流石文樂座を代表する第一流の人であるだけに立派な出来だつたと思ひますが、大物ばかり出たからとて決して最上の舞臺を見せてくれないことを矢張感じました。

家に病人を抱へて充分整理が出来ず、少々亂暴なノートで榮三さん文五郎さんの尊い藝を傷付けたことをお詫びします専門家が見たら随分と間違が多いことであらう。

最後にこの道行については小寺融吉氏のすぐれた記録が既に「旅と傳説」に載つてゐることを御紹介して置きます。

第四百十一號 正誤表

頁	段	行	誤	正
一二	下	一八	機巧 がくくり	機巧 がくくり
一三	下	一八	「ふたつ遣ひ」	「ふたつ遣ひ」
一四	上	二一	「ふたつ遣ひ」	「ふたつ遣ひ」
		九	「ふたつ遣ひ」	「ふたつ遣ひ」
一六	上	一六	影響	影響
一九	下	一四	阿波大夫	阿波太夫
二〇	上	一四	繪畫	繪畫
二一	上	一六	早替り	早替り
二二	上	一六	早替り	早替り
三五	上	二二	主要登場人物	主要登場人物
		二二	心をよせてゐる	心をよせてゐる
		二二	詫びる。	詫びる。
		二二	髪を以り	髪を切り
		二二	文之道	文之進
		二二	證據の證據の	證據の
		二二	滅亡を	滅亡と
		二二	皆様方に	皆様方は